

○空き店舗を活用した優良事例 〈商店街あそびの広場（名寄市）〉

■イベント立ち上げの経過

「商店街あそびの広場」は、上川管内の名寄市で平成 24 年から毎年開催されているイベント。名寄駅前に広がる「名よせ通り商店街」の複数の空き店舗を活用して開催している。

同イベント開催のきっかけは、イベント実行委員会の今野委員長（名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科教授）が、平成 23 年に空き店舗を活用して、人形劇のイベントを開催したこと。

この時、複数の空き店舗を会場にイベントを開催することに手ごたえを感じ、翌年から人形劇に限定せず、「あそび」をテーマとした様々なイベントを開催することで、参加対象も広げることとした。



〔イベントのPRチラシ〕

■イベントの内容

商店街を「一つの美術館、広場」に見立て、児童作品展のほか、工作や絵本の読み聞かせ、人形劇、迷路等、様々な「あそび」を約 20 種類、商店街に点在する空き店舗と協力が得られた営業店舗で展開している。

参加者は希望の「あそび」を求め、各店舗を

巡るため、商店街全体ににぎわいが生まれている。



〔イベントの様子〕

■イベントの目的

本イベントは「子どもたちに創造する場を提供すること」、「文化活動を通じ商店街の活性化を図ること」、「学生と地域の交流を図ること」の3つの目的から企画されている。

名寄市立大学には約 800 人の学生が在籍しているが、学生たちは商店街の店舗に立ち寄ることが少なく、どのような店舗があるかも知らなかったことから、イベントを通じて学生と地域が互いを知り、理解することができれば、双方にとって良い影響があると考えた。

また、既存の駅前で開催するイベントでは、商店街に人が流れることが少なかったが、商店街の複数の店舗を会場とすることで、駅前から商店街まで広い範囲にイベントの波及効果を生み出している。



〔商店街を周遊する参加者〕

■運営状況

イベントを運営する実行委員会は、名寄市、名寄商工会議所、名寄市商店街連合会等が参加し、運営費の半分は名寄市の「街なか賑わい事業補助金」を受け、残りの半分は寄付金で賄っている。

また、会場となる空き店舗は所有者の好意により無料で利用できているほか、営業店舗からも協力を得ている。行政や商工関係団体、企業など多くの人々の協力で開催されているイベントである。

また、開催準備や当日の運営の大部分は名寄市立大学の学生 50～60 名がボランティアで協力するなど、学生が多数いる街だからこそできるイベントとなっている。

■イベントの効果

これまでの8回の開催で知名度は高まり、毎年約 300 組の親子が参加している。参加者が移動の途中に商店街の店舗で買い物をするなど、商店街への波及効果も出始め、店舗からも「商店街がにぎやかで嬉しい」との声が上がっている。また、イベントをきっかけに学生の商店街の利用も増えている。

イベントの企画の一つとして軽音楽や吹奏楽等、サークル活動を発表する学生も増えているほか、イベント後に商店街から学生に壁画制作の依頼があるなど、学生と地域が交流する場としての目的が達成されている。



〔学生による演奏企画〕



〔イベントの様子〕

■運営上の課題

参加した学生の口コミにより、イベントの定着や、自主的に参加する学生が増えているものの、学生ボランティアの確保には苦労している。

また、大家の都合や老朽化により、前年度使用した空き店舗が使用できないなど、会場の確保にも苦労している。

イベントスペースの提供や特別メニューの設定等、イベントに協力してくれる営業店舗は増えてきているが、商店街全体での取組には至っていないため、連携の広がりが今後の課題となっている。

■今後の展開

イベントは今後も継続して実施する予定だが、実施形態については、規模を縮小して開催回数を増やすことや、商店街の店舗を活用した子どもたちの職業体験など、新しい企画も検討している。

名寄市立大学内にある実行委員会の下部組織に蓄積されたこれまでのノウハウを活かし、イベントを通じて商店街の活性化に貢献していきたいと考えている。

取材先

■商店街あそびの広場実行委員会

（委員長：名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科 今野 道裕 教授）

名寄市西4条北8丁目1-1（名寄市立大学 内）